あらすじ

痴漢囮捜査官
鈴峰杏花は

これまで
いくつもの痴漢を
検挙してきた
凄腕の捜査官だった

彼女は
捜査官としてのスキルや
美貌にくわえて
不感症であるという
痴漢囮捜査官として
最大の利点をもっていた

しかし
とある囮捜査の途中で
怪しい男に遭遇する

その男の不思議な力によって
不感症だったはずの
鈴峰杏花の体は

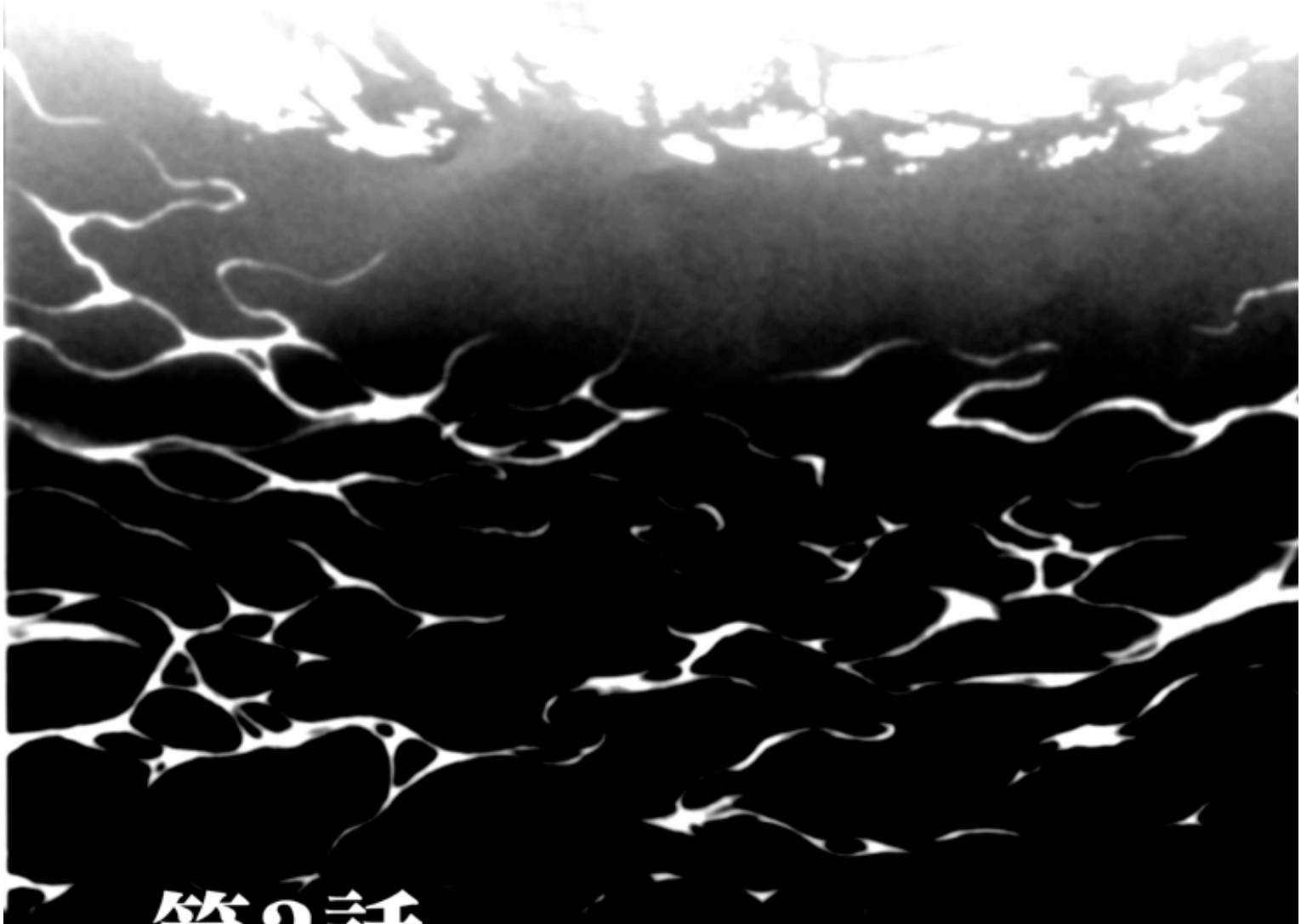
眠っていた性的な快感を
呼び起こされて…

今まで感じたことのない
快楽の衝撃に戸惑わされ
何度もイカされ

痴漢囮捜査の最中に
挿入されて
何も考えられなくなるほど

頭を真っ白にされながら
中出しされるという
最悪な失態を犯してしまう

それは
これまで
完璧に任務を遂行してきた
鈴峰杏花にとって
人生最大の屈辱だった



第3話

絶頂を許されない女に
いつまでも続く
寸止め地獄

……!!
ガタン
ガタン
ダメだ…
何をしているんだ 私は……!
…ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ちゃんとしないと…!
ガタン
ガタン
さわ
さわ

ドンッ
私は痴漢を
捕まえにきた
はずなのに…！
さっきから
ずっと…
触られっぱなしで…！
ああっ…ダメッ…
頭が…しびれて…
もみもみ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ドキッ
……!?

……

プシュ〜

はっ…
いない…

また…
逃がしてしまった

あれからと
言うもの…
抜群の検挙率を
誇っていた
私の痴漢囮捜査は
ミスを連発するようになり
痴漢を捕まえられず
ただ触られるだけで
取り逃がしてしまうことが
多くなってしまった

その原因は
カラダの変化

以前の私は不感症だったため
どれだけ痴漢に触られても冷静に対処することができていた
でもあの男におかしなことをされてからは
日を追うごとにカラダは敏感になっていき
ピチャ♡ピチャ♡
ペロペロ
ちゅくっ♡ちゅくっ♡
ひとたび痴漢にカラダを触られるとカラダは熱く火照って力が入らなくなり
もみもみ

何とか痴漢たちを逮捕しようと打開策を考えようとしてみても

チル♡

チル♡

何をやっているんだ私…！

いつまでこんな男たちに好き放題されているんだ…！

ビクッ♡

ビクッ♡

いいわけばかりが頭の中をめぐるだけで時間が経つにつれて快感に支配されて

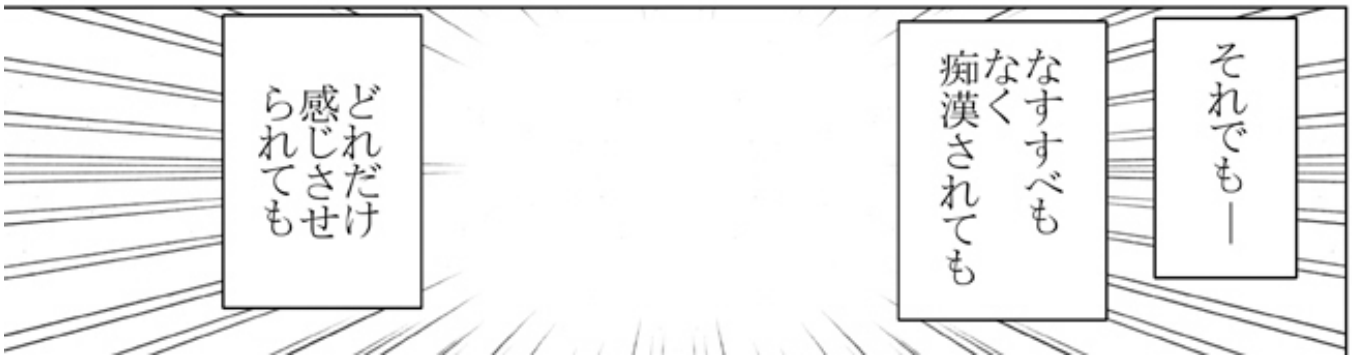
クリクリ♡

クリクリ♡

グラッ♡

グラッ♡

頭は真っ白になって何も考えられなくなって―…



それでも私は
イクことだけは絶対になかった
ビくっ♡
ビくっ♡
ビくっ♡

そして

痴漢囮捜査の仕事を
やめることも
しなかった

このままじゃ

私のプライドが
許さない

絶対にあの男を
再び見つけて
捕まえるまでは
この仕事を
辞めたりはしない！

あの男は
再び現場に現れる！

私は悪質な痴漢の情報を
キャッチするたび
その場所に単身
乗り込んでいった

8月某日
その日は

海水浴帰りの女を
狙って
背後から乳房ばかりを
もてあそび続けるという
痴漢を捕まえるために

路線バスに
乗り込んだ

狙いは的中して
その男を
おびき出すことには

成功した

でも私は
支柱に手を拘束されて
手で抵抗することも
後ろに振り返ることも
出来なくなってしまって

男は
何も出来ない私の
胸を露出させて

じっくり
ねっとりと
弄びはじめて…

びくっ♡

びくっ♡

ぬるっ♡

ぬるっ♡

しかもただ
触るだけじゃなくて

悠々と
胸にオイルを
塗りたくってきて

何…これ…！

ぬるぬるされると
こんなに…!?

オイルでぬるぬるになった
私の胸を揉みまくったり
乳首を弾いたり摘んだり
とにかく胸だけを
しつこくしつこく
私の反応を
確かめながら
なぶり続けて…
ぴくっ♡
ぴくっ♡
ぴくっ♡
ぴくっ♡
ぴくっ♡
ぴくっ♡
ぴくっ♡
ぴくっ♡